

今月の星空



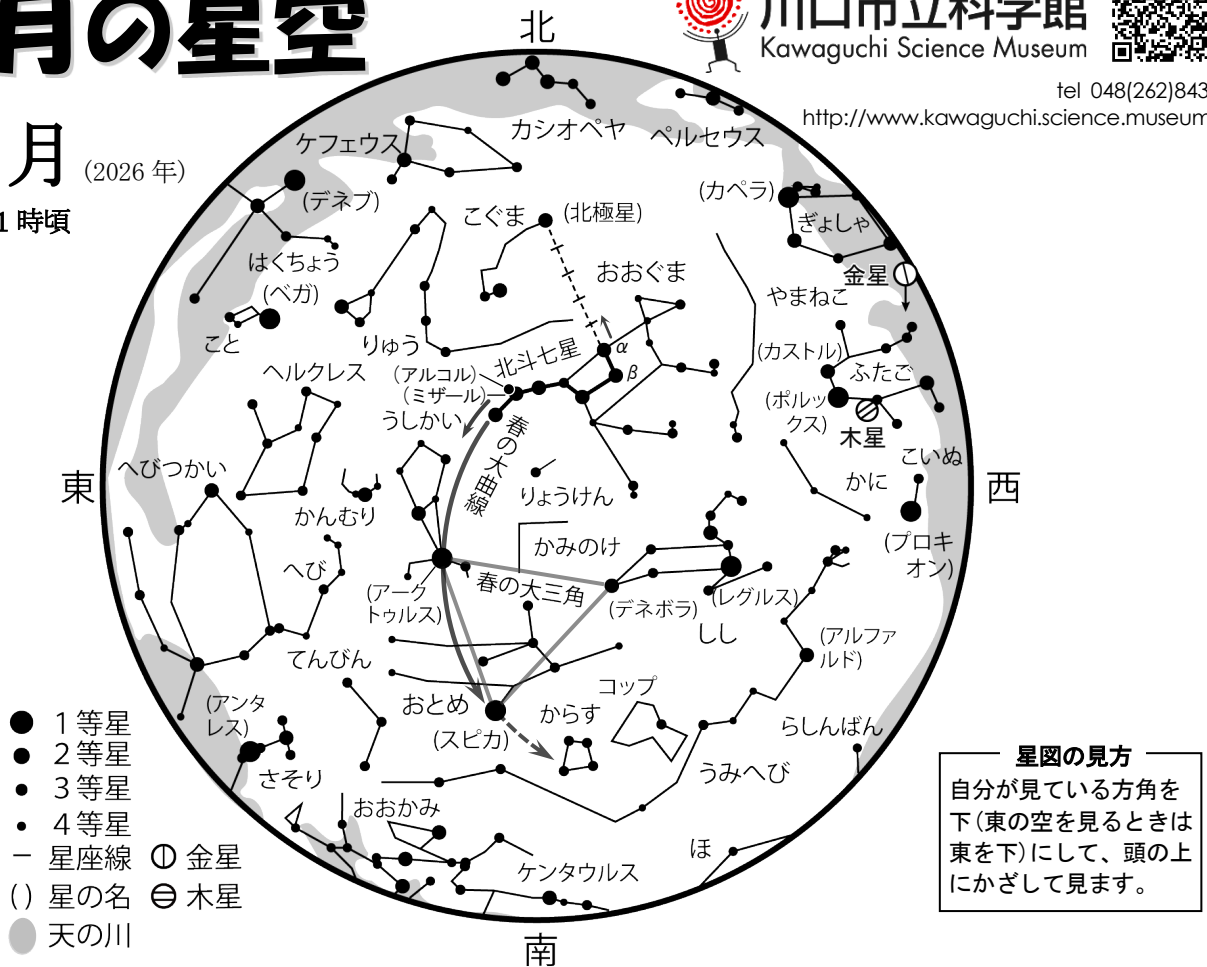
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

<http://www.kawaguchi.science.museum/>

5月 (2026年)
中旬 21 時頃



月 齢 ○ 満月 2日・31日、● 下弦 10日、● 新月 17日、● 上弦 23日

惑星情報 金星 日の入後 西(おうし→ふたご座 -4等) 木星 夜のはじめ頃 西(ふたご座 -2等)
土星 日の出前 東(くじら座 1等)※下旬以降

☆春の星座探しは北斗七星から～おおぐま座からからす座まで～

夕暮れどきの西の空では、これまで大きく離れていた金星と木星が日に日に近づいていきます。最も近づく6月上旬に向けて、特に5月下旬からは2つの惑星の共演に注目です。空が十分暗くなる20時過ぎになれば、北の空70度付近の高さまで昇る北斗七星(おおぐま座の一部)が夜空の主役となります。ひしゃくの形が目印で、日本でも「ひしゃく星」や「かじぼし(舵星)」など多くの呼び名があります。また、端から2番目のミザール(2.2等)は肉眼二重星で、古くから「目試しの星」として知られています。なるべく空の暗いところで、ミザールの脇にアルコル(4.0等)が見えるか挑戦してみてください。

北斗七星が見つかったら、星図のとおり、ひしゃくの柄の部分のカーブを延ばして、アークトゥルス(うしかい座、0.0等)とスピカ(おとめ座、1.0等)を見つけましょう。この北の空から南の空へと続く大きなカーブは「春の大曲線」と呼ばれます。このカーブをさらに延ばすと、4つの3等星が小さな四角形を作るからす座が見つかります。目立つ星座ではありませんが、ほぼ同じ明るさの4つの星がまとまっていて、南中時の高さも40度ほどの適度な高さであるため、意外に見つけやすい星座です。

☆31日、今年地球から最も遠い満月～月って近いの?遠いの?～

今月は2日と31日が満月です。月の満ち欠けの周期は平均して約29.5日であるため、ひと月に満月が2度訪れる場合があります。31日は今年最も小さく見える(最も遠い)満月です。大きさが変わって見える理由は、月の軌道が楕円であり、地球との距離が同じではないためです。平均するとその距離は約38万4,000km。これは地球を30個並べた長さに相当します。31日の満月の距離は約40万6,000km(地球32個分の長さ)、最も大きく見える12月24日の満月は約35万7,000km(地球28個分の長さ)です。

2026年4月11日(日本時間)、有人月ミッション「アルテミスII」において、宇宙飛行士4人が乗るオリオン宇宙船が月フライバイ(着陸せず接近通過する)を実施し、地球帰還を果たしました。月の裏側を周る際、地球から40万6,771kmの距離に到達し、1970年にアポロ13号が記録した人類最遠到達記録を更新しました。今後のミッションでは宇宙飛行士の月面着陸も予定されています。地球に最も近い天体でありながら、5円玉の穴の中に納まるように見えるほど離れている月を改めて眺めてみましょう。